

平成 29 年 5 月 10 日

各 位

会 社 名	株 式 会 社 免 疫 生 物 研 究 所 (コード番号：4570)
本店所在地	群馬県藤岡市中字東田 1091 番地 1
代 表 者	代表取締役社長 清 藤 勉
問 合 せ 先	取締役事業統括推進本部長 中 川 正 人
電 話 番 号	0274-22-2889 (代表)
U R L	<a href="http://www.ibl-japan.co.jp">http://www.ibl-japan.co.jp</a>

## 当社における固定資産の減損の処理による 特別損失計上に関するお知らせ

当社は、平成29年3月期決算におきまして、固定資産の減損を特別損失に計上することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 減損損失（特別損失）の内容及びその理由

当社は、平成29年3月期連結決算において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社が実施している研究開発により得られる将来収益を、将来キャッシュ・フローの見積りに含めず、今後発生する研究開発費及び設備投資を将来キャッシュ・フローの見積りに含め、回収可能性を検討した結果、全社的なグルーピングにおいて、714,232千円を減損損失として特別損失に計上する見込みとなりました。

当社は、キャッシュ・フローを生み出す単位として、「診断・試薬事業」、「遺伝子組換えカイコ事業」、「検査事業」、「化粧品関連事業」、「全社」を基本単位とし、グルーピングしております。

平成29年3月期連結決算におきまして、診断・試薬事業は、当社の基盤事業として安定した利益を生み出し減損の兆候はありません。遺伝子組換えカイコ事業におきましては、当期より稼動した前橋研究所の資産を研究開発費に計上し、来期より償却負担が大幅に軽減することから、減損の兆候は見られますが、将来の回収可能性を検討した結果、減損の必要はないものと考えております。また、検査事業及び化粧品関連事業につきましては、減損処理（本日発表致しました「営業外費用及び特別損失の計上に関するお知らせ」及び「連結子会社におけるのれんの減損及び株式の減損並びに固定資産の減損の処理による特別損失計上に関するお知らせ」参照）を実施しております。

しかしながら、全社的なグルーピングにおいて、今後継続して、遺伝子組換えカイコ事業における人件費や設備投資等の先行投資を積極的に実施し、研究開発費のコストが、現時点の製品群における将来獲得収益を上回るため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の所有する資産等が減損損失として特別損失に計上する見込みとなりました。

今回の減損処理により、当社グループは、将来における償却資産の負担が大幅に軽減し、診断・試薬事業においては、継続して利益の増加を見込んでおり、検査事業及び化粧品関連事業において、中期的に利益の計上を見込んでおりま

す。また、遺伝子組換えカイコ事業におきましては、研究開発に注力し、中長期的に企業価値の向上を目指しております。

なお、今回の減損処理により、当社グループにおける平成29年3月期末時点の固定資産は、当社所有の土地評価額のみとなります。

今後も当社グループは、研究開発型企业として、継続して研究開発に投資し、企業価値向上に向けて、邁進してまいります。

## 2. 業績に与える影響

当該減損の計上による業績への影響につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

以上